



令和7年度7月号 No.637

令和7年6月30日

杉並区立桃井第三小学校

校長 田中 裕次

素敵な自分に向けて

校長 田中 裕次

二つの力

本校は創立 97 年を迎えました。桃井第三小学校はこれまで学校と家庭がそれぞれの機能を発揮しつつ、互いに連携し合い、さらには地域之力も合わさって、地域の子どもたちを育てています。100 年の足音が近づき、これまでの歩みを振り返っています。その中で大事なことの一つに『素敵な自分になろう』です。一人ひとりの良さを受けとめ、伸ばしていく学校でありたいと強く願っています。今は多様性を認め合う時代です。そして未来は誰にも予測できない時代が来ます。その未来を自分らしく生きるために小学校で特に身に付けさせたい力は2つです。

○自分の思いや願いを抱き、自分自身で伸びていく力

○周りの良さや違いに気づき、受けとめられる力

感謝

子どもたちは『素敵な自分』になるために自分を伸ばしていく力をもっています。しかし自分だけでは伸ばしきれないことがあります。困難やできないことに向き合う瞬間です。自分ならできる！やってみよう！あと少し…とその困難に再度挑戦していく気持ちを再び抱くためには周りのサポートが重要です。ご家庭で日々、子どもたちに寄り添い支えていらっしゃる姿に感謝と尊敬の思いでいっぱいです。今日もよく来たね！送り出してくださってありがとうございます！という気持ちで毎朝正門に立ち、子どもたちを迎えています。

学校教育で重視すること

学校でもご家庭同様に一人ひとりを受けとめ、子どもたちの内面を注視しそれぞれの良さを伸ばしていく指導に重点を置いていきたいと考えています。現行の学習指導要領の3つの柱の一つに「学びに向かう力・人間性」があります。子どもが社会や世界と関わりをもちながら、よりよい人生を送るために必要な資質や能力と示されています。教科の範囲にとらわれない学校での全ての時間で見る、協力する力や、優しさ思いやり、リーダーシップ、根気強さなど人の生き方を豊かにするための資質や能力を伸ばすことに重点が置かれています。学習指導要領は 10 年ごとに改定されています。次の学習指導要領は人間性の評価について議論されているようです。

通信簿の見直し

今、通信簿について検討しています。指導と評価は一体です。先生の声かけや指導を一人ひとりがどう受けとめ、どのように伸びているか…学習や生活の様子だけでなく、それぞれの良さや人間性の成長をしっかりと書き記していくものにしたいと考えています。それは今だけでなく、子どもたち自身が 10 年後、20 年後…と振り返る際に「先生が自分の成長を見守っていてくれた」ことを実感できるものにしていきたいと願っています。学校にいる大人が一人ひとりの良さや頑張りをいっぱい褒めてあげたいのです。令和 6 年度児童教育調査の『自分には自分のやりたいことを応援してくれる身近な大人がいる』に 67.9%の子どもが肯定的な評価をしていました。これは他の項目と比べても高い数値ではありません。子どもの安心と居場所のある学校づくりは、見守られている安心と自分らしくしていいという心地よさが必要です。先生としても子どもの成長を共感し、喜びを共有することが教職のやりがいにつながっていきます。通信簿の内容だけでなく、時期や回数なども検討していきます。通信簿の見直しは大きな学校改革の一つです。

素敵な自分に向けて

安心で居場所のある学校で、自分のやりたいこと・頑張りたいことをたくさん抱かせたいと願っています。そのための第一歩は受け止めてあげること。素敵な自分になるために、そのままの自分でもいいよ！を実感させる声かけ、見守りで、家庭や地域、学校が一体となって子どもたちを包んでいきましょう。夏も本番です。体調に留意し、夏休み前の 1 学期のまとめを頑張ります。